

地域課題の解決に向けた取組

森林整備の低コスト化・省力化に向けて

網走中部森林管理署

【はじめに】

網走中部森林管理署管内は、北海道東部のオホーツク海側の南部に位置し、農業・漁業・林業の盛んな地域です。

当署管内の1市3町に約10万6千畝の国有林があり、民有林は約6万5千畝あります。

北海道大分水嶺の三河山を源にする常呂川流域を中心に、サロマ湖を含むオホーツク海まで、変化に富んだ地域となっています。

【地域の課題】

網走東部流域では、民有林の伐採が進んでいますが、再造林が適切に実施されない造林未済地の増加が懸念されています。

これは、森林所有者の森林にコストをかけたくないという意識と、苗木の供給不足・林業事業体の担い手不足などの課題があります。

当署ではこの問題解決に取り組むため、植え付けの低コスト化・保育作

業の省力化及び苗木不足の解消に向けて取り組むこととしました。

【課題解決に向けた取組】

植栽時の効率化が図られるコンテナ苗を民有林でも使用してもらうためには、市町村の林務担当者へコンテナ苗の有効性を理解してもらう必要があり、そのために「コンテナ苗植栽現地検討会」を令和2年度に開催しました。



コンテナ苗植栽現地検討会

市町村林務担当者・北海道林務担当職員・森林組合職員を対象に、コンテナ苗の特徴や普通苗と

の価格差、どのくらいの省力化が図れるか等の説明と、使用する植え付け用器具の使用方法について紹介を行った後、実際にエンジン付き穴掘り機とディンプル（植栽専用器具）を使用して、コンテナ苗の植栽体験をしてみました。

コンテナ苗の特別な技術を必要としない植え付けの容易さや、植栽効率向上について参加者の理解が深まりました。

同年度に予定していた佐呂間町国有林に設定している低密度植栽試験地での現地検討会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、やむなく翌年度へ延期することとしました。

【今後の取組】

今年度は、昨年度延期とした「低密度植栽試験地現地検討会」を実施する予定です。

これは、通常より植え付け本数を減らすことにより、苗木不足の解消と苗木代など造林費用の低コスト化のために設定し

た試験地の生育状況等を実際に見てもらおうものです。

また、当署管内は、道内でも比較的笹の植生高が低いことから、生育の早いカラマツコンテナ苗を使用して、緩効性肥料等の追肥を行うことにより、苗木の成長を促進させ、下刈りが省略できるか検証するための試験地の設定を予定しています。



コンテナ苗試験予定地

今後もこのような取組を通じて、技術の普及を図り民有林での森林整備の低コスト化・省力化に貢献できればと考えています。